

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ひ-

現在、京都大学医学部附属病院では、当院で保管している菌株と診療情報等を使い、下記の研究課題の実施に利用しています。

この共同研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問合せ担当者まで直接ご連絡ください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の検体<sup>※1</sup>から分離された菌株<sup>※2</sup>・診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の問合せ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

この研究課題は、国立健康危機管理研究機構の倫理審査委員会の審査・承認を受け、京都大学医学部附属病院長の許可を受けて実施しています。

※1 検体：検査の対象として患者さんから採取されたもの（尿、血液、喀痰など）

※2 菌株：患者さんの血液や痰等を培養して検出された菌類や微生物から、分離培養した単一の菌（例えば大腸菌）

[共同研究課題名]

多剤耐性菌感染症の臨床情報および試料収集に関するレジストリ研究～疾病負荷および経済評価の検討～

[共同研究の研究代表機関及び研究代表者]

研究代表機関・研究代表者：国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究センター 国際感染症センター  
齋藤翔

[研究対象者]

研究機関の長の実施許可日～2027年3月31日までの間に、京都大学医学部附属病院にてカルバペネム耐性菌・感受性菌が検出された方

[利用する試料・診療情報等の項目と取得方法]

試料：上記対象期間・対象者において、診療で検査を行った後の菌株を利用します。菌株は、国立健康危機管理研究機構へ送付します。

診療情報等：

- 1) 患者背景、
- 2) 身体所見、
- 3) 臨床検査、
- 4) 培養検査、
- 5) 治療、
- 6) 臨床的予後、
- 7) 医療費等

カルテから上記に該当する情報を収集し利用します。情報は、電子症例報告書として、国立健康危機管理研究機構にて収集します。

[利用の目的] （菌株の遺伝子解析研究： <sup>※3</sup>）

カルバペネム耐性菌が検出された患者さんの疫学的特性や予後、菌株の特徴、疾病負荷や経済的評価の関連性などを明らかにすることを目的とした多施設共同研究です。

※3 この研究は、患者さんの検体ではなく菌株を用いるため、患者さん本人の遺伝子ではなく、出てきた菌株（例えば大腸菌）の遺伝子を解析して、その特徴を調べます。

[共同研究機関及び研究責任者]

菌株は、国立健康危機管理研究機構にて収集し、菌株の解析を実施し、解析結果も国立健康危機管理研究機構にて収集します。また、診療情報等も電子症例報告書にて国立健康危機管理研究機構にて収集します。国立健康危機管理研究機構にて収集した菌株の情報や診療情報等は、下記共同研究機関（No1、2）へ提供します。

1. 藤田医科大学（研究責任者：土井洋平）
2. 京都大学医学部附属病院（研究責任者：松村康史）

#### [研究実施期間および主な提供方法]

期間：研究の実施許可日より 2028 年 3 月 31 日までの間（予定）

提供方法：■郵送・宅配（菌株） ■その他（診療情報は電子症例報告書にて収集）

#### [利用または提供を開始する予定日]

研究機関の長の実施許可日以降に提供します。

#### [解析結果のご説明について]

本研究は、登録されたデータを解析に用いているため、患者さん自身の解析結果や研究全体の解析結果をご連絡することはありませんが、本研究で収集させていただいたご自身の情報をご覧いただくこともできます。ご希望される方は下欄問合せ先までご連絡ください。

#### [試料・情報・データの新たな研究での利用について]

試料：本研究で収集した菌株は、国立健康危機管理研究機構にて保管されます。これらの菌株は、今後、研究開発に使用するために、国立健康危機管理研究機構から希望する研究者等へ分譲される可能性があります。その場合、患者さん個人が特定できない状態で提供します。

情報：菌株の解析結果や診療情報等は、国立健康危機管理研究機構内のデータセンターにて保管します。今後、研究開発に使用するために、国立健康危機管理研究機構から希望する研究者等へ分譲される可能性があります。その場合、患者さん個人が特定できない状態で提供します。

データ：本研究終了後、本研究で収集したデータは個人の識別ができないように措置を行った上で管理を行います。その後は新たな研究で利用する可能性があります。その場合、患者さん個人ができない状態で提供します。将来の研究において、研究対象者に該当するか否かは下記の紹介先（京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部）へご連絡ください。

試料・情報・データを 2 次利用する場合には、必要に応じてあらかじめ倫理審査委員会の審議を行い、研究機関の長の実施許可を得ます。

#### [菌株情報・診療情報等を利用・提供してほしくない申し出があった場合について]

ご自身の検体から分離された菌株・診療情報等を本研究に利用・提供してほしくない申し出があった場合、患者さんに不利益が生じることはなく、その方の菌株・診療情報等は本研究で使用しません。しかし、申し出があった時点で、すでに論文などで研究結果等が公表されている場合、解析等から除外するのは困難なことがあります。

-----  
[この研究での菌株・診療情報等の取扱い]

国立健康危機管理研究機構倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、利用・提供する菌株や診療情報等から氏名、生年月日等の情報を削除し、個人が特定されないことがないように加工をしたうえで取り扱います。

[当院の研究責任者（既存試料・情報のみ提供する機関は責任者）、および、連絡先]

研究責任者：京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 准教授 松村 康史

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部

松村 康史、津田 裕介、篠原 浩

TEL: 075-751-3502

京都大学の苦情等の相談窓口：

京都大学医学部附属病院 臨床研究相談窓口

TEL： 075-751-4748

E-mail： ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

[問合せ担当者（研究代表機関）]

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 齋藤翔、塚田愛

電話：03-3202-1781(代表)（応対可能時間：平日9時～16時）

[研究資金・利益相反]

この研究は厚生労働省 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の研究資金を受けて行います。資金提供者は研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与しません。また、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査しています。

作成日：2025年12月22日第4版